

第31回京都府歯科医学大会

歯科衛生士会企画セミナーのご案内

受講料
無料

中途障害者の補綴治療と摂食指導のコツ

田中 章寛 先生

東京都立心身障害者口腔保健センター 歯科医師

平成31年2月24日(日)

10:00~12:10(受付9:30~)

京都府歯科医師会館 4階4・5・6会議室

(京都市中京区西ノ京栞尾町1番地)

※日本歯科衛生士会 第4次認定更新生涯研修単位取得

・A臨床研修コース b摂食嚥下機能療法の基本技術 II—B 2単位

- ◆当日は開始10分前までに会場(4階4・5・6会議室)にお越し下さい。
(1階の歯科医学大会での受付も済ませて下さい)定員を超えた場合のみ連絡をいたします。
- ◆お申し込み後にやむを得ず欠席されます場合は本会事務局まで必ずご連絡ください。
- ◆この研修会は日衛第4次認定更新生涯研修制度対象です。
日本歯科衛生士会の会員証を必ずご持参ください

お申し込み方法

締切り:平成31年2月14日(木)

定員:70名(先着順)



E-mail

kdh2000@mbox.kyoto-inet.or.jpまで下記の事項を入力の上ご送信下さい

件名:平成30年度京都府歯科衛生士会第3回学術研修会 京都府糖尿病療養指導士認定更新のための講習会

①氏名 ②職種 ③連絡先住所

④電話番号(緊急の場合、当日連絡がつく番号の記載にご協力下さい)



FAX

専用の「受講申込書」にご記入の上、下記宛にご送信下さい

FAX 075-672-5706

公益社団法人 京都府歯科衛生士会

第31回京都府歯科医学大会

歯科衛生士会企画セミナー

「中途障害者の補綴治療の注意と摂食指導のコツ」

東京都立心身障害者口腔保健センター 歯科医師

田中 章寛 先生

日時：平成31年 2月24日（日）10：00～12：10

受付：9：30～（事前に1階の歯科医学大会での受付を済ませて下さい）

場所：京都府歯科医師会館 4階4・5・6会議室

京都市中京区西ノ京梅尾1番地

受講申込書

※以下の内容をもれなく記載下さい

締め切り 2月14日（木）

| | |
|---------------------|-----|
| 氏名（ふりがな） | |
| （会員） 会員番号・支部名（他府県名） | |
| （会員外）連絡先住所 | |
| 連絡先（当日連絡がつく番号）TEL | FAX |
| E-mail アドレス | |

日本歯科衛生士会 第4次認定更新生涯研修単位取得

・A臨床研修コース b摂食嚥下機能療法の基本技術

II-B（2単位）

FAX 075-672-5706

E-mail kdh2000@mbox.kyoto-inet.or.jp

公益社団法人 京都府歯科衛生士会

抄録

東京都立心身障害者口腔保健センター

田中 章寛

【略歴】

1997年3月 日本大学歯学部卒業
2001年3月 日本大学大学院歯学研究科修了 歯学博士取得
2001年4月 日本大学歯学部助手 補綴学教室総義歯補綴学講座
2005年4月～2007年3月 日本大学歯学部兼任講師
2005年4月 東京都立心身障害者口腔保健センター（現在に至る）
2018年4月 日本障害者歯科学会医療保険委員会委員（現在に至る）

【資格】

日本障害者歯科学会認定医、日本老年歯科医学会専門医・指導医、
日本補綴歯科学会専門医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士



中途障害者の補綴治療の注意と摂食指導のコツ

平成29年度の内閣府高齢社会白書では、日本の総人口は1億2,693万人（平成28年10月1日現在）です。そのうち65歳以上の高齢者人口は3,459万人で、総人口に占める割合（高齢化率）が27.3%となっています。平成28年度の厚生労働省の患者調査における歯科の年齢別患者割合では、平成2年に65歳以上の歯科受診率は13.4%でしたが、平成26年では41.0%に増加しています。このように高齢者の歯科受診が多くなることで、内科的疾患を有する方や要介護となる方を対象とした歯科診療が増加していることが現実となっています。

行政では今後さらに地域包括ケアシステムを十分に整備し、医療・福祉分野などにおける多職種連携が必要と提言しており、特に、在宅医療では口腔健康管理だけではなく、歯科が食支援に役立つ摂食・咀嚼・嚥下機能の維持向上に係わる機会が増えることを期待しています。しかし、現実問題として、地域で摂食嚥下機能を支援する場合の課題がいくつかあります。

- ①摂食嚥下障害について困った時、どこに相談して良いかわからない
- ②摂食嚥下機能支援を行える医療機関の情報がない
- ③さまざまな職種がそれぞれどのように連携してよいかかわからない

などが挙げられます。このような摂食嚥下障害の情報を、かかりつけ歯科医から発信できれば患者さんや御家族の方々は「食べること」に関する心配は軽減され、少しでも快適な日常生活が送れることになると考えられます。摂食嚥下障害の原因には、脳血管疾患後遺症、パーキンソン病、認知症（アルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型）、加齢、サルコペニアなどが挙げられます。今後はこのような疾患になる以前から、少しでも早期に口腔機能の維持を目的とした、誤嚥性肺炎予防のための継続的な口腔のケア、咬合を支持する補綴治療および摂食指導を行う歯科診療所の存在が必要不可欠となります。

今回、中途障害者の歯科診療、特に義歯補綴治療時に注意するポイントについて症例も交えて報告します。さらに、摂食嚥下機能を支援する場合の基本である摂食嚥下機能のメカニズムや摂食指導のコツ、いつまでも口から食べる機能を維持できるような歯科診療についてもお話したいと思います。